

スタンドグラス

展示場3階に、スタンドグラスの展示が新登場です！多くの人にとって、間近で見える機会というのはそう多くないでしょう。

ガラスに金属元素が混ざると、その元素が特定の色の光を吸収することによって、ガラスはさまざまに色づきます。チタンなら青紫、クロムなら緑、ニッケルは黄色や紫…。スタンドグラスは、そんな色ガラスの魅力をぜいたくに楽しめるものです。

この新展示は、伝統的な工法でつくられています。色ガラスのピースをひとつずつ切り出し、それらを、断面がH字型の鉛線(ケイム)でつないでいきます。鉛線同士は、ハンダでくっつけます。ガラスと鉛線の隙間はパテで固定されています。

上のようなケイムによる工法だけでなく、さまざまな技法が取り入れられています。たとえば中央のバラの部分にはティファニー方式といい、ケイムではなく銅テープとハンダでつなぐ方法で、繊細な表現がされています。スタンドグラス3面をつなぐのは、砕いた厚い板ガラスを樹脂で埋めるダル・ド・ヴェールという技法です。

また、絵付けにもご注目ください。顔料をガラスに塗り、焼き付けて描かれています。ただし、紙と異なり、画材が染み込まないので、少し描いては焼き付け、また描いては焼き付け…を繰り返して描かれます。このスタンドグラスの展示は水都大阪がイメージされたものです。よく見ると、ところどころに魚の絵がとても写実的に描かれています。いずれも淀川水系の絶滅危惧種です。

取材協力：大阪市立クラフトパーク

上羽 貴大(科学館学芸員)

